

この学校にわたしたち

2022. 11. 22

N047

ウォルト・ディズニーの夢の実現

ディズニーのファンの方はご存じだと思いますが11月18日はミッキーマウスの誕生日です。世界中にファンを持つディズニーですが、日本においても2024年に新たなエリアを続々とオープンさせる計画がされています。しかし、これだけの企業が順風満帆にここまでこられたわけではありません。ウォルト・ディズニーが最初に設立した会社は“オズワルド・ザ・ラッキー・ラビットというキャラクターを考案し、大ヒットをしたものの、製作費の交渉が難航し、社員も引き抜きに合うなどし、倒産寸前までいったと言われています。”そんな中、新たなキャラクターを求めて誕生したのがミッキーマウスであったそうです。ウォルト・ディズニーの夢は“チャップリンになること”だったそうで、数々の挫折に負けず、自分の夢をアニメという形で実現させたそうです。このような話はウォルト・ディズニーに限ったことではありません。スポーツ選手でもユーチューバーでも現在、一流と言われる人の人生の裏には挫折や苦勞が数多くあったことと思います。挫折や苦勞をした分、そしてそれらを乗り越えてきた分、その人を成長させ一流と呼ばれるようにしたのだと思います。子どもたちには、大小人によって異なるかもしれませんが、将来、どんな挫折や苦勞が待っているかしれません。その時に“こんなことが起こったから夢が壊れた”と環境のせいにするのではなく、“負けてたまるか”という強い気持ちで困難を乗り越えていってほしい…そう願います。そのために今、いろいろな本を読み、いろいろな人に出会い、話を聞き、人生の大切な土台を築いていってほしいと思います。



SAとしての校長室

私は車旅をすることが好きで、その度にSA（サービスエリア）や道の駅で休憩をします。先週、それまで毎朝来てくれていた1年生が誰も来ませんでした。「何か言ってしまったのだろうか?」「人気に陰り?」など少し不安に思っていました。ふと、外を見ると1年生6名全員が外でドッジボールをしていました。その姿にほっとするとともに子どもたち同士が仲良く遊んでいる姿を見ることができてとても嬉しく思いました。翌週、その



中の1人の男の子が来て「久しぶりにきた」と言いながら「ドッジボールをするのが面白いと感じた」と話してくれました。校長室に来なくなることは私としては大分寂しいですが、子どもは子どもたち同士の中で成長していくと私は考えています。校長室は子どもたちが疲れたときにふと立ち寄れるSA（サービスエリア）的な存在がちょうどよいと思います。